

ミズナラ堅果結実調査が始まりました

実りの秋を迎え、当センターで平成元年より取り組んでいるドングリ調査が今年も始まり、9月7日(木)にシードトラップを設置しました。

知床を代表する木『ミズナラ』の種であるドングリは、野生動物の重要な餌にもなりますが、その結実習性には未知の部分が多く、年によって豊凶の差があるため継続的な調査が欠かせません。調査は10月下旬まで続きます。昨年は凶作でしたが、今年は第1回目の回収の感触から並作以上は期待できそうです。



～九州の高校生を知床の森に案内しました～



8月17日(木)、福岡県立小倉高等学校の生徒6名と教諭1名の計7名が、知床を訪れ、当センター引率の下で森林散策やシカ食害防止の網巻きなどを体験しました。小倉高校は文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けており、今回はその活動の一環として知床に体験学習に訪れたものです。当日は知床の自然の特徴についてレクチャーを受けた後、知床自然観察教育林などを巡りました。

途中ではエゾシカを間近で観察したり、枯立木にクマゲラがあけた大きな穴に驚いたり、知床ならではの体験に生徒達も興奮気味の様子でした。一方で、エゾシカによる樹木への食害の現状も見てもらい、生態系のバランスを保つことの難しさを感じてもらいながら、2本のイチイに食害防止の網を巻きました。遠く離れた九州から来た生徒達は、手つかずと思っていた知床の自然が、開拓の歴史や自然再生の取組、エゾシカ対策等、人との関わりも深いことを知り、認識を改めていたようです。



食害防止の為、網巻をしました

ゴミの持ち帰りを呼びかけました



8月1日(火)、日観協主催のクリーンキャンペーンが実施され、各団体から30名程が参加(当センターからは2名参加)しました。参加者は、オシンコシンの滝と知床峠で、観光客にゴミ袋等を配布し美化運動への協力を呼びかけるとともに、周辺のゴミ拾いを実施しました。多くの観光客が立ち寄る場所にもかかわらず、観光客のマナーが向上しているのか、はたまた日頃の美化運動の賜物か、意外とゴミは落ちていませんでした。どちらにしろきれいな知床を楽しむためにも、ゴミのポイ捨ては止めましょう!

*** ホームページに広報紙のバックナンバーを掲載しました! ***

知床森林センター広報紙「知床の森から」の第1号から最新号までの全てをPDFファイルで掲載しています。20年近い歴史を一気に遡ることが出来ますので、是非ご覧下さい!

HPアドレス: <http://www.shiretoko.go.jp>

平成18年9月発行 第103号



知床の森から

(写真: 9月のボンホ口沼跡地)

北海道森林管理局 知床森林センター

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

電話 0152-23-3009 FAX 0152-23-3160

ホームページ <http://www.shiretoko.go.jp/>



知床は今



知床は世界自然遺産登録から1年が経ちました。観光客が殺到すると思われていた今年、4～6月こそ対前年比で増加したものの、本格的観光シーズンに入った7月、8月は昨年と同じ、もしくは減といった状況で、ひとまず落ち着きを見せているところです。

一方で、今まで立ち入りが少ない場所への入込みの増が懸念されています。そんな場所の一つ、知床岬について関係行政機関による合同巡視が8月25日(金)に実施されました。

道の通っていない知床岬は、そのアクセスの困難さから人為の影響が殆ど無い場所ですが、過去には船でのレクリエーション目的の上陸が後を絶たず、昭和59年、関係機関の申し合わせにより、動力船による上陸が禁止されるなど、その利用は厳しく制限されています。また、今年4月には環境省から立ち入り自粛要請も出されています。一方で、エゾシカの越冬地でもあることから、植物へのシカの採食圧が顕著な場所でもあり、アメリカオニアザミといった外来種が幅を利かせ始



オニアザミの種子も回収しました



たき火の跡を発見

めているなど、植生の変化も目立ってきています。

今回の巡視では上陸者が使ったたき火の跡を2箇所発見しました。岬周辺は国立公園の特別保護地区に指定されており、自然を改変する行為は厳しく制限されています。知床岬は原始性の高い自然が残る数少ない場所の一つで、秘境・知床を象徴する場所でもあるだけに、今後も、巡視、モニタリング活動等を通じて現状が維持されるための取組を続けていく必要があります。

7月20日(木)、27日(木) 第77、78回森林レクリエーションin知床
 「可憐な花を求めて神秘の羅臼湖へ行こう」

例年、多数の応募を集める羅臼湖散策イベント。今年は回数を2回に増やして実施しました。両回とも定員を大幅に超える応募を頂き、抽選の結果、合計で40名の方に参加頂きました。初回はガスに包まれ霧雨が降るあいにくの天候、2回目は快晴と対照的な条件となりましたが、花の時期だけに歩道沿いにはゴゼンタチバナなどの高山植物が可憐に咲き、皆さんの目を楽しませてくれました。センター職員からは、「ダケカンバが地面を這うような節くれだつた奇妙な形になったのは積雪の重みで枝が押された事」、「ササは一株で5m~10m四方もある事」、「片側の枝が枯れた不思議



7月なのに雪渓が...

な形のトドマツやエゾマツは強い季節風が吹きつける為片側の枝が枯れてしまった事」などの解説がありました。今時期はハイマツの花が咲いていたのですが、一見すると花には見えずに「これ

が花なんですか?」と問い返す方もいらっしゃいました。コースの所々には大きな雪渓も見られ「もう7月下旬なのに、まだ雪が残っているんですね」と驚く方もおり、知床の自然環境の厳しさを体感していただいた様子でした。

大小の沼や湿原が次々に現れる変化に富んだコースの終着点は羅臼湖展望台。時には目の前の湖も見えなくなるほど霧がかかる場所ですが、幸い、両回ともその姿を拝むことが出来ました。皆さんは普段なかなか訪れる事の出来ない羅臼湖散策を楽しんでいた様子でした。



羅臼湖へ到着

8月9日(水) 第79回レクリエーション in 知床
 「知床の森でキノコの秘密を探ろう」

森林生態系の中でも見落とされがちな菌類の役割を、キノコの観察を通じて理解して頂こうと企画した今回のイベントは、昨年に引き続いて知床でキノコの調査を行っている五十嵐恒夫北海道大学名誉教授を講師にお招きし実施しました。参加者は年配の方を中心とした20名ですが、夏休み中ということもあり、帰省していた小学生のお孫さんを連れてこられた方もいらっしゃいました。

まず、皆さんは、森林に入る前にセンター2階会議室で五十嵐先生より事前のレクチャーを受講。スライドを使った赤や黄色の色鮮やかなキノコの紹介を通じ、キノコが森林生態系の中で果たしている役割について説明を受けました。ものを腐らせるだけではなく、木々と助け合って成長する共生関係にあるキノコがあるといった説明に加え、マツタケが北海道にも自生していることなどいろいろなエピソードが紹介され、これから行うキノコ観察への期待感が高まりました。

観察会を行った「知床自然観察教育林」では、ここしばらく続いた晴天による少雨の影響か、



イロガワリイグチを説明しています

はたまた北海道らしからぬ暑い日が続いたせいか、見ることの出来たキノコの種類はそれほど多



くはありませんでしたが、それでもセミの幼虫から出た冬虫夏草「エニワセミタケ」といった珍しいキノコを見ることが出来、予め五十嵐先生が用意した幼虫からキノコが伸びている標本を見た参加者からは驚きの声が上がっていました。また、傘の裏が網目状になったイロガワリイグチを見つけた時は、「イグチの仲間は菌根を形成し、樹木と共生関係を築く」との説明があり、実際根っこまで土を掘って、菌根を確認しようとする姿に、参加者の皆さんはキノコの知られざる一面を感じて頂いた様子でした。

ヤチダモに発生したヒメモグサタケです 食べられるもの以外は見過ごされたり、気味悪がられたりしがちなキノコですが、専門家に解説してもらうことで、森林の中で「分解者」として重要な役割を果たしていることを理解して頂いたようで、知床の価値である「生態系」の一端に触れて頂き、イベントの目的は達成できたものと感じました。

菌根：菌類が植物の根と菌糸の間で何らかの関係を持ち、植物と共生するときの根のこと。

9月18日(月・祝) 第80回森林レクリエーションin知床
 「紅葉の森林と黄金色の草原巡り」

今回は世界自然遺産区域内にある知床自然観察教育林を幌別川まで散策する往復約4.5kmのコースで、抽選で選ばれた50~60代を中心とした計20名の方にご参加頂きました。

当日は台風の接近も心配されましたが、幸い晴天に恵まれ、秋らしい清々しい空気の中、春の雪融け水が溜れたポンホロ沼一面を埋めるヒメシダが緑の絨毯のようでした。草原越しには羅臼岳が姿を現し、雄大な風景に皆さん喜ばれていました。また、一部に残る泥地にはヒグマの足跡がくっきりと残っていて、私達がヒグマの生息地に入っていることを実感して頂きました。



木の種を探しました

コース中では、エゾシカのヌタ場やクマゲラが樹木に開けた食痕、ヒグマの爪痕など、野生動物の息吹が感じられる痕跡を解説し、多くの生き物達を育む森林の役割について理解を深めて頂いたようでした。また、実りの秋らしく、コース上には様々な種が落ちていて、シナノキの種は



ポンホロ沼跡地で記念撮影

風に乗って運ばれ、ミズナラのドングリは動物に運んでもらうといった植物の戦略について皆さん感心されていた様子でした。計4時間ほどの散策で、アップダウンもあるロングコースでしたが、健脚揃いの参加者からは「なかなか行けないところを案内してもらい良かった」「森林の中を歩き、気分がゆったりしてストレス解消になった」といった感想を頂きました。あいにく紅葉にはまだ早く、所々でツタウルシが赤く色づいている程度でしたが、奥深い森林内を散策し、心地よい疲れとともに、森林の持つ「レクリエーション機能」を実感して頂きました。